

【耕畜連携】（滋賀県 うしのごちそう生産組合）

- 「うしのごちそう生産組合」は、平成21年に耕種農家3戸により設立。国庫補助事業を活用し、稲WCS専用収穫機械やロールペーラー、ラッピングマシン等を導入し、同年秋から取り組みを開始。
- 地域内での耕畜連携による自給飼料生産を推進するため、甲賀市農業再生協議会が中心となり、甲賀地域耕畜連携会議（構成員：県、市、JA、うしのごちそう生産組合、農業者等）を設置。この連携会議の事務局が中心となり、稲WCSやトウモロコシサイレージの需給調整を実施。
- 供給している稲WCSは、地域の酪農家の多くが利用。令和3年8月には補助事業を活用し、新たに汎用型収穫機を導入し、稲WCSとトウモロコシの収穫調製を効率よく実施。
- トウモロコシの取組面積は、平成30年に大幅に減少したが、翌年から大規模水田作経営体を中心に作付推進。その結果、令和2年から新たな取組が行われて、面積が大幅に増加。



図1、うしのごちそう生産組合
シンボルマーク

耕畜連携による稲WCSの生産利用体制

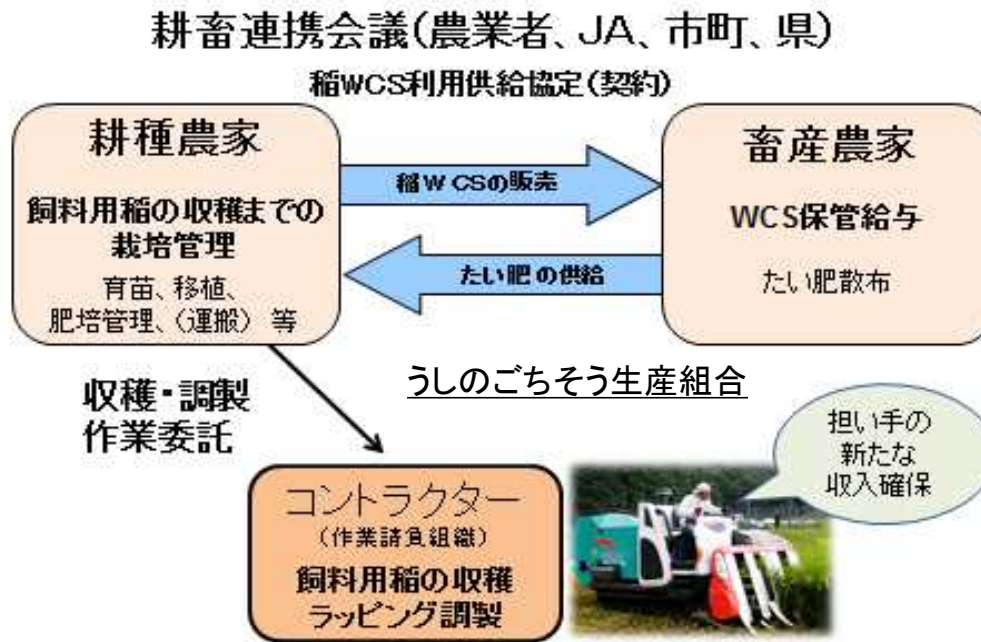


図2、滋賀県甲賀地域での稲WCS生産利用体制



写真 汎用型収穫機による収穫

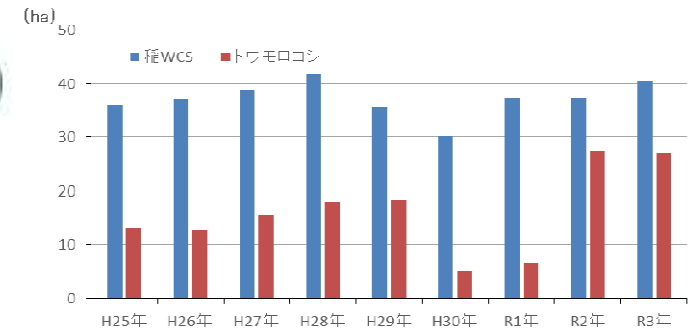


図3、取組面積の推移

